

第2回質問票調査 分析結果

1. 調査概要

- 調査期間： 2020年8月7日（金）～ 9月7日（月）
対象地域： 全世界
調査対象： 農業・農村開発分野プロジェクトのC/P及び対象農家
回答数 計456件（アフリカ345件、アジア89件、中南米22件）

2. 要約（考察）

地域別に回答の傾向を分析、比較したもの。また、前回は回答数が多かったアフリカ5か国（カメルーン、マダガスカル、ウガンダ、マラウイ、ナイジェリア）を対象に、5月に実施した調査結果との比較を行った。

* 特にアジア、中南米は回答数が限られ、国毎の偏りが大きい点に留意が必要

（1）地域別の考察

① アフリカ

- COVID-19の感染状況は、都市部では引き続き感染が拡大し、村落部では落ち着く傾向が見られる。
- 農業生産に関して、COVID-19の感染拡大前に播種を終えた作物が多く、大きな生産量の減少は見られない。
- 庭先価格は、保存のきかない野菜、乳製品や換金作物の価格低下が一部見られたが、大きな低下傾向は見られない。一方、販売量の減少が見られ、収穫しても販売できない状況が発生している。販売量減少の原因として、オフテーカーの不在、買取量の減少、需要の減少のいずれにも高い傾向を示している。また、マーケット価格は、全ての食料・モノで例年と比べ高い傾向にある。サプライチェーンの混乱によるものと推測される。
- 農業所得に減少傾向が見られ、農家の生計に負の影響を及ぼしている（ほとんどの農家が過去3か月で生計が「悪化した」と回答）。今後、購買力低下による更なる農業投入財や労働力の減少が予想され、農業生産（播種、収穫）へ負の影響を及ぼす可能性が考えられる。

② アジア

- COVID-19の状況は比較的落ち着き、ピークは脱したと推測される。前作期の生産量及び販売量は微減（約80-90%）で、流通量の減少も最小限であった。

- 一方で、マーケット価格に関しては、特に穀物で価格上昇がみられる。また、生計では農家への負の影響が強く、小規模農家への影響は今後も注視していく必要あり。

③ 中南米（※回答数が少なく、正しい傾向を把握するには更なる調査が必要）

- 全体的に COVID-19 による影響は大きく、収穫量が大幅に減少。農業投入財（種子や肥料）の入手に困難が生じている。
- 庭先価格の低下は小さい一方、流通量の減少、マーケット価格の上昇傾向が見られる。農業投入財の入手困難による生産量低下に加え、サプライチェーンの混乱が発生していることが予想される。

（2）対象 5 か国の前回調査との比較による考察

① カメルーン

- 全体的に前回調査よりも負の影響は小さく、回復傾向が見られた。特に、マーケット価格は 5 か国で唯一影響の軽減が見られた。影響は緩和されているが、依然 COVID-19 の負の影響が見られるため、注視していく必要あり。

② ナイジェリア

- 生産量と庭先価格への影響は前回よりも大幅に回復し、影響は見られなかった。一方、流通量とマーケット価格への影響は極めて高い傾向を示した。ナイジェリアのような食料の輸入依存が高い国では、国全体の食料が減少し価格高騰が発生しやすい。

③ マダガスカル

- 生産量や流通量といった食料・モノの総量への影響はほとんど見られない。しかし、過去 3 か月で価格面の急激な変化（庭先価格の低下とマーケット価格の上昇）が発生している。サプライチェーンの混乱によるものと推測される。農家の所得減少、支出増加が懸念される。

④ マラウイ

- 全体的に負の影響が見られ、前回調査からやや悪化している。その中でも、生産量と庭先価格の低下が見られ、農家の所得減少が深刻化していると推測される。

⑤ ウガンダ

- 全体的に前回調査よりも負の影響は小さく、回復傾向が見られた。しかし、生産量、流通量、マーケット価格への影響は継続して高い傾向を示しているため、今後も注視していく必要あり。

以上

別紙

1. 第 2 回質問票調査分析結果（詳細）
2. 回答データ一覧

第2回質問票調査 分析結果（詳細）

1. 回答数

24 か国から計 456 件の回答（農家：253 件、C/P：193 件）があった。地域別ではアフリカの回答が約 75% を占め、アジアが 20%、中南米が 5% と回答に偏りがあった。

国別、地域別の回答数

	FARMERS	C/P	TOTAL	前回
KYRGYZ	8	3	11	0
LAOS	12	0	12	0
MYANMAR	44	10	54	0
SRI LANKA	12	0	12	0
BOLIVIA	4	4	8	0
PARAGUAY	9	5	14	0
BENIN	2	3	5	0
BURKINA FASO	0	1	1	7
CAMEROON	23	24	47	42
CÔTE D'IVOIRE	2	0	2	0
DR CONGO	1	0	1	0
ETHIOPIA	1	10	11	7
GHANA	3	3	6	13
KENYA	0	3	3	4
NIGERIA	5	29	34	18
MADAGASCAR	39	32	71	73
MALAWI	30	26	56	54
MOZAMBIQUE	4	11	15	12
RWANDA	7	2	9	30
SENEGAL	0	1	1	7
SIERRA LEONE	14	4	18	5
SOUTH SUDAN	0	4	4	0
TANZANIA	10	4	14	26
UGANDA	29	17	46	34
ASIA	76	13	89	
LATIN AMERICA	13	9	22	
AFRICA	171	174	345	
TOTAL	260	196	456	448

2. 分析結果

主に地域別の分析結果の比較を行った。また、前回調査（2020年5月）と本調査の両方で回答数が30以上あったカメルーン、マラウイ、マダガスカル、ウガンダと食料の輸入依存度が高いナイジェリアの5か国を対象として、前回調査との比較も行った。その他の国別の詳細な集計結果は「別紙2. 回答データ一覧」を参照。

(1) COVID-19の感染状況

- COVID-19の感染状況は、アジアでは落ち着きつつあるが、中南米は感染が拡大傾向にある。アフリカでは、農家とC/Pで回答に大きな差があり、C/Pの多くが過去3か月間で感染が拡大していると回答する一方、農家の感染拡大に関する回答は低い割合であった。都市部では引き続き感染者が拡大しているものの、村落部では落ち着いてきていると推測。

感染が拡大傾向の国*	キルギス、パラグアイ、エチオピア、ナイジェリア、マダガスカル、マラウイ、モザンビーク
------------	--

*サンプル数が10以上かつ「過去3か月で感染が拡大している」と回答した人が50%以上の国

「過去3か月間でCOVID-19感染者が増加」と回答した割合

	アジア	中南米	アフリカ	計
農家	23.5%	75.0%	23.9%	25.3%
C/P	23.1%	66.7%	80.2%	75.9%

(2) 農業生産

- 農作物の生産/販売に関して、アジアでは前作期で80%以上が計画通りに収穫/販売ができたという回答する一方、中南米では生産量/販売量共に計画の半分以下であった。
- アフリカでは、収穫量が減少傾向にあるが、それ以上に販売量が低下しており、収穫後ロスや買取上の問題の発生が推測される。

収穫量が大幅に減少*	ボリビア、マラウイ、モザンビーク、タンザニア
販売量が大幅に減少*	ボリビア、カメルーン、コートジボワール、マラウイ、モザンビーク、ウガンダ
収穫量-販売量が20%以上減少	カメルーン、ナイジェリア、マダガスカル、モザンビーク

*サンプル10以上かつ50%以上が減少していると回答した国

「前作期で計画の何%収穫/販売できたか」の回答の平均

	収穫	販売
アジア	88.8%	80.9%
中南米	46.4%	39.3%
アフリカ	63.1%	45.1%

- 販売量減少の要因として、全体の約80%が「オフテーカーの来る回数と買取量が減った」と回答し、移動制限などによって販売先、販売量の低下が発生している。移動制限

による影響は前回調査に引き続きいずれの地域でも高い傾向を示し、全体の 77.7%が過去 3 か月間で影響があったと回答。

- 生産量減少の原因としては、「農業投入財の減少」、「労働力不足」、「普及員の訪問減少」、「悪天候」に高い傾向が出ている。
- 農業投入財の減少は「流通量の減少」によるものではなく、「価格の高騰」の影響が大きい。
- 前回調査と比較すると、農業投入財と労働力に対する影響が悪化していることがわかる。

前作期で生産量減少に影響を及ぼした要因（「はい」と回答した割合）

	耕作面積の減少	投入財の減少（価格）	投入財の減少（流通量）	投入財の減少（政府補助）	悪天候	労働力不足	普及員の訪問減少	知識・技術不足	蝗害
アジア	10.3%	39.7%	10.4%	9.1%	50.0%	64.2%	54.4%	54.5%	0.0%
中南米	42.9%	71.4%	85.7%	71.4%	75.0%	87.5%	100.0%	85.7%	37.5%
アフリカ	31.9%	76.1%	39.5%	65.2%	57.5%	57.4%	62.0%	65.0%	23.4%
計	26.5%	64.5%	30.9%	49.4%	54.4%	58.9%	60.2%	62.5%	18.3%
前回	27.3%	27.5%	14.5%	N/A	N/A	21.9%	N/A	N/A	N/A

（3）庭先価格

- 庭先価格（ファームゲート価格）は、前回の調査と同様に大きな低下傾向は見られなかった。アジア、中南米地域では、いずれの作物も価格の低下は発生していないが、アフリカでは、穀物、野菜・果物、換金作物で若干の低下傾向が見られた。

「例年と比べ販売価格が減少した」と回答した農家の割合

	Rice	Maize & wheat	Sorghum, millet & tubers	Beans	Vegetables & fruits	Cash crops	Meats & eggs	Dairy products	Fish
アジア	6.1%	4.8%	9.1%	3.8%	6.9%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%
中南米	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%
アフリカ	21.7%	20.3%	21.8%	12.9%	19.1%	27.6%	5.4%	4.8%	4.4%

（4）流通量

- 食料とモノの流通量に関して、アジアでは流通量減少の影響は比較的小さいが、メイズ、小麦、農薬、農業投入財の流通量が過去 3 か月で減少傾向がみられる。
- 中南米、アフリカでは、ほとんどの食料・モノの流通量が例年比、3 か月前比で減少している。特に穀物や農業投入財の流通量が 3 か月前と比べて大きく減少している。
- 一方、前回の調査で急激に流通量が減少していた衛生用品や薬は、比較的安定してき

た様子。

- いずれの地域もパニック買いやマーケット閉鎖は3か月前より落ち着いている。

流通量の減少が大きい国と作物*：	キルギス(麦/小麦,薬)、ロシア(種子,肥料)、スリランカ(麦/小麦)、ナイジェリア(肥料)、シエラレオネ(ソルガム/ミレット/仔類,肥料,種子)、ウガンダ(豆類,飼料)
------------------	---

*サンプル数 10 以上で、75%以上が減少したと回答した国と作物

「例年/3か月前と比べて流通量が減少した」と回答した割合

		Rice	Maize & wheat	Beans	Fresh food	Hygiene items	Medicines	Seeds	Fertilizer
アジア	例年比	6.2%	33.3%	6.2%	3.7%	7.4%	32.5%	21.5%	23.4%
	3か月前比	10.0%	62.5%	22.8%	17.7%	20.3%	38.0%	20.3%	25.0%
中南米	例年比	23.8%	45.0%	30.0%	33.3%	38.1%	50.0%	52.6%	53.3%
	3か月前比	42.9%	52.4%	52.4%	52.4%	57.1%	60.0%	57.9%	62.5%
アフリカ	例年比	42.3%	36.6%	49.7%	36.4%	29.4%	46.9%	44.8%	49.1%
	3か月前比	58.2%	51.4%	61.4%	47.9%	40.3%	57.0%	54.7%	60.1%

(5) マーケット価格

- マーケット価格は、全ての食料・モノの価格が例年と比べ高い傾向にある。
- 前回調査でも価格の上昇傾向が見られたが、今回調査でも約半数が「過去3か月で価格が上昇した」と回答しており、前回以上に価格が上昇している。特に上昇率が高いのは穀物、豆類で、全体的にアフリカ、中南米での影響が大きい。

マーケット価格の上昇が大きい国と作物*：	キルギス(麦/小麦,肉類,飼料)、ロシア(穀物,乳製品,投入財)、ミャンマー(移動費)、スリランカ(麦/小麦,投入財)、パラグアイ(肉類,種子)、カメルーン(豆類)、エチオピア(穀物,豆類,野菜,種子,移動費)、ナイジェリア(全て)、マダガスカル(移動費)、マウイ(移動費)、モザンビーク(全て)、シエラレオネ(全て)、ウガンダ(豆類,肉類,飼料,移動費)
----------------------	--

*サンプル数 10 以上で、75%以上が上昇したと回答した国と作物

「例年/3か月前と比べてマーケット価格が上昇した」と回答した割合

		Rice	Maize & wheat	Beans	Vegetables, Fruits	Meats and eggs	Dairy products	Seeds	Fertilizer	Animal feeds	Public transportation
アジア	例年比	67.1%	75.0%	30.6%	28.6%	35.2%	36.2%	31.6%	37.7%	47.2%	72.1%
	3か月前比	50.0%	66.7%	38.0%	35.8%	45.7%	39.5%	29.9%	41.6%	47.8%	76.9%
中南米	例年比	85.0%	84.2%	82.4%	80.0%	95.0%	94.7%	94.4%	83.3%	89.5%	57.1%
	3か月前比	57.1%	65.0%	66.7%	66.7%	76.2%	85.0%	88.9%	77.8%	84.2%	66.7%
アフリカ	例年比	75.4%	65.3%	73.6%	56.4%	59.2%	62.3%	56.3%	59.1%	60.5%	84.3%
	3か月前比	70.7%	62.0%	72.2%	52.1%	55.7%	54.9%	54.3%	55.4%	58.3%	81.4%

(6) 農家の生計の状況

- アフリカ、中南米では、ほとんどの農家が過去3か月で生計が「悪化した」と回答。一方、アジア（特にC/P）では生計への影響は軽微。
- 食料へのアクセス、食料備蓄もアフリカ、中南米では過去3か月で悪化している。一方、アジアでは既に回復傾向にある。
- 次期作では、農業投入財、労働力、需要予測の全てに不安を抱えており、要素別に違いは見られなかった。

生計と次期作についての以下の質問で「はい」と回答した割合

		生計の悪化	食料アクセスの低下	食料備蓄の低下	次期作への不安				
					投入財 (affordability)	投入財 (availability)	労働力	市場需要	蝗害
アジア	農家	60.3%	28.1%	31.1%	52.9%	52.9%	66.2%	79.5%	37.7%
	CP	18.2%	0.0%	0.0%	83.3%	75.0%	92.3%	90.9%	20.0%
中南米	農家	66.7%	76.9%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%
	CP	62.5%	71.4%	57.1%	100.0%	100.0%	88.9%	100.0%	80.0%
アフリカ	農家	80.2%	61.2%	63.8%	92.9%	81.8%	76.6%	86.3%	77.5%
	CP	78.2%	66.7%	58.7%	89.7%	80.4%	73.8%	89.2%	67.1%

(7) 対象5カ国の前回調査との比較

① 生産量

カメルーン:	両調査で減少傾向が少し表れている。今回調査で若干の回復傾向が見られた。
ナイジェリア:	前回は減少に強い傾向だが、今回は影響なし。COVID-19の影響から回復している。
マダガスカル:	両調査で減少傾向は見られなかった。農業生産へのCOVID-19の影響は最小限である。
マラウイ:	両調査で減少傾向。今回調査で若干の悪化傾向が見られた。
ウガンダ:	前回は減少に強い傾向。今回も減少傾向だが、影響は緩和されている。

対象5カ国の生産量の前回調査との比較

	今回(8月) 計画の何%を収穫できたか?	前回(5月) 生産量が減少したと回答*
カメルーン	55.7%	40.0%
ナイジェリア	90.0%	83.3%
マダガスカル	85.9%	17.4%

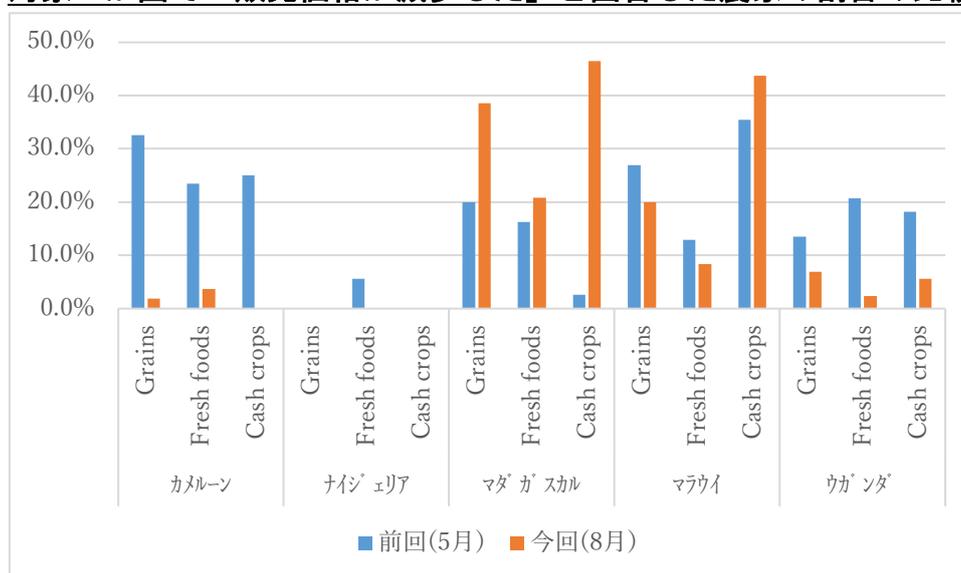
マラウイ	40.8%	54.8%
ウガンダ	55.2%	78.9%

* 農家に対する質問票で「COVID-19によって生産量が変化したか」に「減少した」と回答した割合

② 庭先価格（販売価格）

カメルーン：	前は減少傾向だったが、今回は平常に戻っている。
ナイジェリア：	両調査とも庭先価格に影響は見られなかった。
マダガスカル：	両調査で減少傾向。特に今回調査で強い傾向を示し、状況は悪化している。
マラウイ：	両調査で減少傾向。特に換金作物への影響が大きい。
ウガンダ：	前は若干減少傾向だったが、今回は落ち着きつつある。

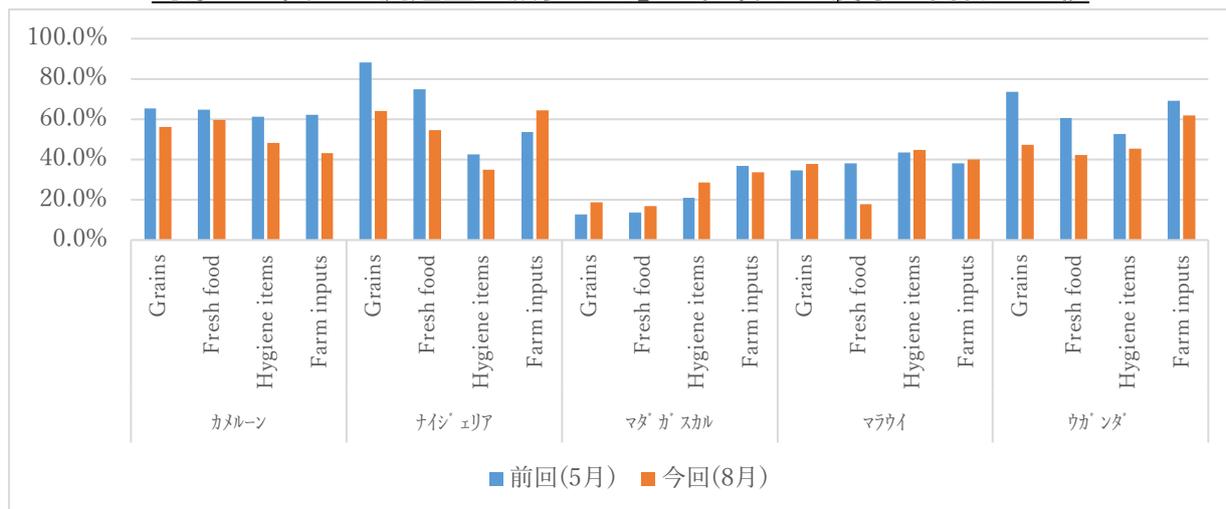
対象5か国で「販売価格が減少した」と回答した農家の割合の比較



③ 流通量

カメルーン：	回復傾向にあるが、例年と比べると流通量が減少している。
ナイジェリア：	食料は回復傾向にあるが、農業投入財の流通量は悪化している。全体的に例年よりも流通量は減少している。
マダガスカル：	両調査とも流通量の影響は小さい。農業投入財で比較的高い傾向。
マラウイ：	両調査で減少傾向。状況は前回から変化なし。
ウガンダ：	回復傾向にあるが、例年と比べると流通量が減少している。

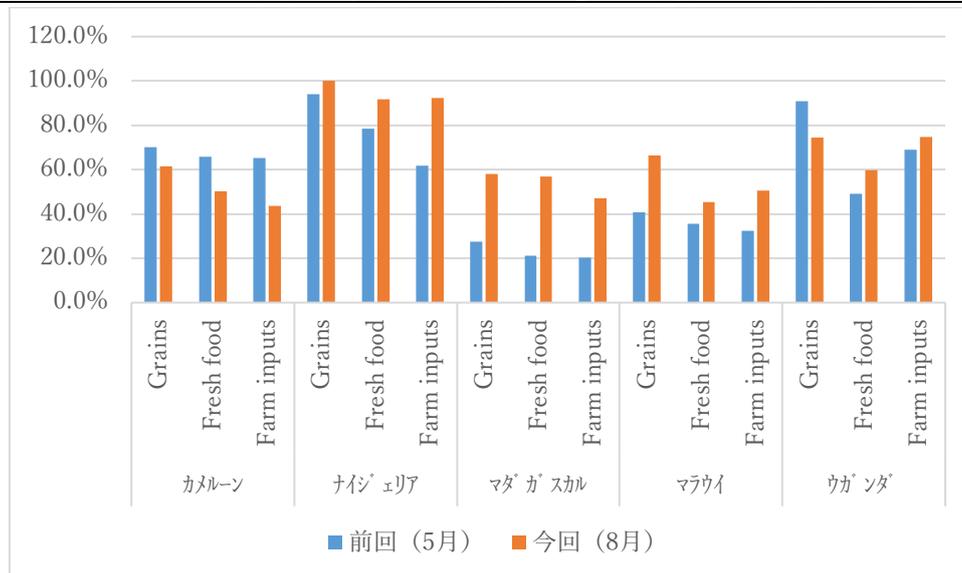
対象5か国で「流通量が減少した」と回答した農家の割合の比較



④ マーケット価格

カメルーン：	回復傾向だが、例年と比べると高い傾向。
ナイジェリア：	極めて高い傾向。前回から状況は悪化している。
マダガスカル：	前は影響が見られなかったが、今回は上昇傾向。
マラウイ：	前回より高騰している。特に穀物で高い傾向。
ウガンダ：	全体的に、価格が高い傾向。穀物は若干回復傾向。

対象5か国で「マーケット価格が上昇した」と回答した農家の割合の比較



⑤ 生計

カメルーン：	生計への影響は悪化しているが、農家の食料アクセスと食料備蓄への影響は小さい。農家よりも C/P への影響が大きい。
ナイジェリア：	全体的に悪化。特に C/P への影響が拡大
マダガスカル：	前は影響が小さかったが、状況が悪化傾向。特に農家への影響が

	大きい。
マラウイ：	全体的に状況は悪化している。
ウガンダ：	全体的に悪化。特に食料備蓄への影響が拡大。

対象5か国の生計に関する質問の前回との比較

		生計の悪化		食料アクセスの低下		食料備蓄の低下	
		前回(5月)	今回(8月)	前回(5月)	今回(8月)	前回(5月)	今回(8月)
カメルーン	農家	26.3%	56.5%	66.7%	38.1%	30.0%	36.8%
	C/P	73.7%	91.7%	88.2%	75.0%	42.1%	83.3%
ナイジェリア	農家	87.5%	100.0%	100.0%	50.0%	62.5%	60.0%
	C/P	44.4%	89.3%	85.7%	89.7%	11.1%	75.9%
マダガスカル	農家	26.0%	92.3%	24.5%	82.1%	31.3%	84.2%
	C/P	20.0%	72.4%	42.1%	65.6%	66.7%	46.9%
マラウイ	農家	50.0%	86.2%	58.1%	55.2%	21.9%	58.6%
	C/P	50.0%	80.8%	40.9%	56.0%	9.5%	54.2%
ウガンダ	農家	77.3%	86.2%	72.7%	69.0%	23.8%	67.9%
	C/P	83.3%	70.6%	100.0%	52.9%	25.0%	58.8%

以上